

ふくおかファイナンシャルグループのお取引先企業の中から、
サステナブルファイナンスやSDGs「ンサルティングをご利用いただいた企業の
サステナビリティの取り組みをご紹介します。

(今回ご紹介する企業)

株式会社 酒見糧穀

さけ
みりょうこく

代表取締役社長

さけ
み
こう
いち

酒見光一 氏

取引店／福岡銀行 北野支店

日本人の食の原点である米を取り扱えることに誇りを持つ

ブランド米の一大産地で 日本人の主食である米に関する

当社は、九州最大の1級河川である筑後川と、緑豊かな耳納連山に育まれた筑後平野の肥沃な大地が広がる福岡県久留米市北野町に本社を置き、白米の搗精(※1)および米穀卸販売業を営んでいます。1979年の創業以来、契約生産者や近郊の一般生産者からは生もみおよび玄米を、農協等の事業者からは玄米をそれぞれ

仕入れ、「主食用白米の搗精」「醸造用白米の搗精」「無洗米加工」「ライスセンター(※2)」「ネット通販」の5つの事業を行っています。搗精後の白米は、日本各地の大手スーパー・マーケット、米穀店、大手外食チェーン店、醸造メーカー、地元自治体のふるさと納税の返礼品等として出荷する他、ネット通販、楽天市場で個人向けの小売り販売も行っています。

2012年に、私の父であり創業者(現会長)の酒見俊朗(としうら)から社長を引き継ぎました。社長に

就任した際に、当社が日本人の主食である米に関する業務を行っていることに誇りを持ち、安全で安定した品質と価格の米を消費者に届ける使命を受け持つ、という強い信念を社員と共有する経営理念を定めました。

最新の設備と豊富な経験で 地域の生産者と消費者を応援

安全で安定した品質と価格で米を供給できるよう企業努力を続ける一方、脱炭素や廃棄物のリサイクルに取り組み、現存する日本の米作課題を解決すべく、耐暑性、多収性のある品種の種子を契約生産者へ流通するなど、サステナビリティを意識した経営を続けています。

(※1) 精米のこと
(※2) 大型乾燥機や粉搗り機を設置し、近隣の一般生産者が持ち込む生もみを玄米にする施設



久留米市北野町の本社工場



上:主食用白米の精米工程／下:楽天市場で数々の賞を受賞



(FFG)ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の証、記念楯を贈呈(左から酒見社長、佐々木支店長(福岡銀行))

である久留米市と、大刀洗町のふるさと納税の返礼品としても当社の米が活用されています。

実践するサステナビリティ経営

当社は日本人の主食である米に特化した事業を営むことから、持続可能でなくてはならず、常にサステナビリティを意識した経営を実践しています。無洗米加工の工程においては、加工の際に大量の米のとぎ汁が発生しますが、そのとぎ汁の上澄み液だけを農業用水として利用し、沈殿して固化した残渣を廃棄物として処分しています。ところが米のとぎ汁が、堆肥と混ぜることで堆肥中の微生物の餌となることがわかり、以降は堆肥と混ぜて関連企業で生産する農作物の肥料として使用しています。さらには2024年からは、その残渣を近郊のバイオマス発電所の燃料として譲渡することで残渣の全量をリサイクルしています。無洗米の販売を増やすことで、販売先の大手外食チェーンや消費者による米の洗浄が不要になります。無洗米の販売を増やすことで、販売先の大手外食チェーンや消費者による米の洗浄が不要になります。販売先での過度な洗浄を防ぐ節水効果と、廃棄物の排出抑制効果の双方に貢献しています。

また米袋に関しても、一般的にはスーパーの店頭などで3kg、5kg、10kg用としてポリエチレン製の袋が使用されています。当社では、2024年

だけではなく、製造時にCO₂の発生を抑制する製品です。今後は無洗米だけでなく、すべての製品を充填する際に、同等の国産バイオマスプラスチックを原料とする袋を使用する予定です。



ライスレジン®を原料とした米袋を採用

FFG ポジティブ・インパクト・ファイナンスの利用

例年9月から10月にかけて稻刈りのシーズンになると、多くの生産者が生もみを持ち込むことで、当社のライスセンターにトラックの長蛇の列が並ぶことが、地域の風物詩となっています。そこで契約生産者や一般生産者の待機時間を大幅に削減するために、ライスセンターに新たな設備を導入することにしました。

FFG ポジティブ・インパクト・ファイナンスでは、「CO₂排出量の削減」「大気汚染物質の排出抑制」「(無洗米加工用)米のとぎ汁の再利用」「国産バイオマス由来の包装用資材の全製品への展開」「事業継続計画(BCP)の策定」「労働災害発生件数ゼロの継続」「災害時の食料支援協定の締結」「JFS-B規格認証の継続取得」、と8項目ものKPIを設定しました。これらのKPIは当社だけの行動だけでは実現が困難なものもあることから、福岡銀行をはじめとしたふくおかファイナンシャル



新設したライスセンター内部

当社は、サステナビリティ経営をさらに進展させたいと考えております。



対談中の様子(左から酒見社長、佐々木支店長(福岡銀行))

株式会社 酒見糧穀



- 本社所在地: 〒830-1102 福岡県久留米市北野町八重龜456番地の1
- 電話番号: 0942-78-4138(代表)
- 事業内容: (主食用・醸造用白米)の搗精、無洗米加工、および米穀卸販売、無洗米加工、ライスセンター事業、米のネット通販
- 関連会社: 株式会社酒見農産、九州穀物検査協会株式会社、福岡県農産物集荷協同組合、株式会社アグリマイスター九州、ライスプラザーズ株式会社



FFG公式YouTubeチャンネルでは
同社の酒見社長にインタビューしています。
こちらもご覧ください。



FFGでは企業のESG/SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら

ふくおかファイナンシャルグループ
ソリューション事業本部 インダストリーカバレッジグループ

お問い合わせ: TEL.092-723-2525

サステナビリティに
関することは何でも
ご相談ください

その建設資金を調達する際に、福岡銀行北野支店から、サステナブル・スケール・インデックスとFFG ポジティブ・インパクト・ファイナンスで提案を受けました。当社は前述のとおり、サステナビリティを意識した経営を実践しており、課題解決のための資金調達をこのFFG ポジティブ・インパクト・ファイナンスで行うことになりました。

FFG ポジティブ・インパクト・ファイナンスでは、「CO₂排出量の削減」「大気汚染物質の排出抑制」「(無洗米加工用)米のとぎ汁の再利用」「国産バイオマス由来の包装用資材の全製品への展開」「事業継続計画(BCP)の策定」「労働災害発生件数ゼロの継続」「災害時の食料支援協定の締結」「JFS-B規格認証の継続取得」、と8項目ものKPIを設定しました。これらのKPIは当社だけの行動だけでは実現が困難なものもあることから、福岡銀行をはじめとしたふくおかファイナンシャル